

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193000098		
法人名	株式会社 すまいるふらの		
事業所名	グループホーム すまいるふらの コスモス		
所在地	北海道富良野市下御料1990番地		
自己評価作成日	令和4年9月6日	評価結果市町村受理日	令和5年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_U22_kan=true&lievosvoCd=0193000098-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和4年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念に基づき今年度の事業所の目標は、『と掲げています。コロナウイルス感染症で、昨年同様外出など生活の中でも制限がある中でも、担当職員との定期的なカンファレンスで、一人一人の生活の中での楽しみや大切な習慣とは何か。を考え、密にならない場所への外出(お寺の納骨堂へのお参りや、自宅のお仏壇お参り、季節に合わせた花畑ドライブ等)を実施。また、ご面会も現在は制限されている状況だが、オンライン面会や電話を積極的に活用し、ご家族様との会話を楽しむ機会を作ったり、LINEメールにて、生活の様子を動画や画像に収め、定期的に送付し、ご家族様にお元気な様子を見ていただくことで、ご家族との関係性や交流は途絶えないよう工夫をしています。今年6月より中国からの技能実習生1名がGHで受け入れを行なっています。6月17日に富良野の当社社宅に移動、6月20日から技能実習を開始しています。他、4月にも新人職員がGHに2名入社され、日々の新人教育を通じながら、若い職員の育成に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は広大な敷地に介護度に応じたサービスが利用出来る多機能型複合施設を開設しており、当事業所もその中に開設し4年目を迎えています。各介護事業所や託児所が併設された地域交流館は花壇、畑、東屋がある中庭を中心に建ち、利用者や幼児が集う憩いの場となっています。事業所は長引くコロナ禍で家族等の面会を制約していますが、オンライン面会、LINEでのメールや動画配信、定期的な電話連絡、運営推進会議録、「すますま便り」の配布など様々な工夫し、情報を開示しながら透明性の高い介護支援に取り組み家族の安心につなげています。利用者のありのままの言葉や行動を「元気の素」シートに記録して共有を図り、一人ひとりが主役になれる場面を考え、希望や要望の実現に日々取り組んでいます。食事の準備、活花、裁縫、畑作業、俳句、読書、体操など、生活歴を反映した支援も本人が周りから認められ、事業所内での居場所づくりの提供につながるなど、職員は日々元気に過ごすことができる環境を整えています。今年度は中国からの技能実習生や新人職員も加わり、若い人材に恵まれた事業所は、活動性を高めるために研修体制の充実を図り、質の高い人材育成に力を注ぎ、利用者が人生の最期まで自分らしく暮らせる事業所を目指し取り組んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解や応援が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は全職員ネームプレートの裏に掲示し常に確認をしている。事業所目標は、上半期、下半期に分け設定し、進捗状況、振り返りはユニット会議や施設の全体研修、人事考課等にて実施している。	法人理念の4つの誓いを主軸に半期毎に事業所目標を策定しています。職員は社員証と共に理念を携帯し意識を高め、会議や研修等でケアを振り返り、その人らしい生活は何かを追求し実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は、併設している建物内の地域交流館も活用したり、市内のイベントやサークル活動にも積極的に参加しているが、現在は感染症対応のもと実施。8月は神社祭にて御神幸式やお神輿御旅所が中庭にて行なわれた。	SNSで事業所の活動を発信しています。例年通りの地域交流は困難ですが、感染症対策を講じ、インターン生の受け入れ、体操教室開催、中庭での神社祭や恒例の高校生による苗植え等、出来得る交流を継続しています。地元農家から旬野菜が届きます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年であれば、NPO法人主催の認知症カフェに参加したり、ラン伴等認知症に関する行事などにもご利用者と共に参加しているが、昨年に続きコロナウィルスの影響を受け再開できていない。SNSで日常の様子はその都度公開し、地域の方々向けに発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	感染症対応にてご家族様の参加も以前より少ない状況。参加できなかったご家族様には、後日文章にて報告、意見交換を実施。7月の運営推進会議では、ご家族様より以前ご意見のあった職員紹介を行う。また、技能実習生の受け入れ、感染症対応の内容等をお伝えした。	感染状況を見極め対面または書面にて会議を年6回開催しています。事業所運営、利用者状況、感染症対策等について議事録に纏め報告し、都度家族にアンケート用紙を配布して意見、要望を汲み取り、対応を講じるなど運営向上に具体的に生かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険課に運営推進会議に参加していただき指導、意見などをいただいている。その都度電話などにて連絡をとりアドバイスをいただきながら日々のケアサービスに生かしている。	行政とは施設長や介護支援専門員が対応しています。コロナ感染症発生時は行政職員始め保健所職員の指導を仰ぎ協働関係を築いています。認定更新時、各種書類提出時には直接実情を伝え情報を共有しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、年2回研修を計画し、事業所職員にどのような事が拘束に繋がるのかを伝え学ぶ機会を作っている。他、新入社時研修にも学ぶ機会を作っている。言葉がけの仕方によっても拘束に繋がる事を職員内で意識し支援している。	指針を整備し、委員会、研修は定期的開催しており、職員は身体拘束の具体的な行為について学んでいます。特に、グレーゾーンにあたる言葉遣い、行動抑制については話し合い、どのような行為が拘束に当たるか職員間で共通認識を持ち、テストを実施し基本に立ち戻り、抑圧を感じない支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回職員研修にてどのような事が虐待になるのかについて学ぶ機会を設けており、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、GMが都度、市内の専門機関に相談をし、対応を行っている。今後も制度の理解等を学ぶ機会を作り、必要なお利用者に対し適切に専門機関に繋げるように知識を身に付けておく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご利用者、ご家族に説明を行い、不安、疑問点などはその都度、電話、メール等も活用しながらお話を伺っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で、ご家族より意見をいただき発信できるよう努めている。他、書面でアンケートを実施するなどし意見、要望をお聞きしている。	家族の面会は感染状況に応じ抗原検査を行い、別室での対面となっています。月1度は事業所側から電話やメールで利用者状況を報告し、要望等を聞き取り可能な限り対応しています。オンライン面会、LINEでの動画配信やメールは家族に好評を得ています。「ますます便利」や運営推進会議録には利用者の活動状況の写真を掲載し、多くの情報を発信して安心につなげています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の全職員対象の運営推進会議や月1回のユニット会議、個人面談の際に、意見を交換や提案などを聞きながら、ユニットの運営や目標設定に生かしている。	法人の全職員を対象とした会議や事業所のユニット会議、施設長との個人面談、アンケート調査など、法人は意見や提案を傾聴する機会を設け、更にITC導入で職員の業務時間短縮を図り負担軽減に努めるなど、労働環境を整えています。職員は役割を担い、スキル向上に励んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	GHは職員年齢層が低く昨年より、ITC機器の導入、活用が間接業務時間の短縮や負担軽減に繋がっている。年2回の職員面談でスタッフの意見などを聞く機会を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ個々の仕事に対する目標設定や振り返りは、管理者と半年毎に面談にて行い、必要な研修を社内で検討し計画を立てている。GHは、今年新人職員や技能実習生受け入れを行い、教育担当チームを組み、サブリーダーの育成に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	現在はコロナウイルスにて交流を積極的には行う事が難しい状況だが、近隣の介護施設との合同研修などをオンライン研修にて実施して、他施設の状況など情報共有の場をつくっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者一人一人に担当職員を固定し、ケアマネジャーと共に、ご本人の日々の困っている事、不安な事などを話せる相談役となれるよう、関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面談で、ご家族を含め今までの生活歴や趣味嗜好等、細かい聞き取りをし入居後の環境の変化に早く慣れるよう対応し、入居後の様子は都度メールにて動画などを添付しご家族に伝え、信頼関係が持てるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ずまいるふらのには、有料老人ホーム、GH、小規模多機能と複合型の施設であり、入居相談受け付けの際に、ご本人、ご家族からお話を伺い、必要な支援に合わせ、サービスを選択していただけるよう対応をしている。必要に応じ、市内の他の事業所への紹介も行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現在は女性のご利用者様が多く、毎日の副菜やみそ汁作りの際に、調理の味付け方法や野菜の下ごしらえ、盛り付け等慣れた手すきで行い、ご利用者から若い職員に教えていただける場面がある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度はコロナウイルス感染予防にて、面会や外出の機会が減少しており、関係性が途絶えないよう、オンライン面会や電話、メールでのやり取りで交流を図れるよう工夫をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症状況に合わせ、ご家族様にも協力していただきながら、お寺の納骨堂へのお参りや、自宅の畑やお仏壇お参りを実施。また、ご家族様と定期的な電話や、お手紙でのやり取りで馴染みの方との関係性継続支援を行っている	コロナ禍にあっても状況を見極めながら、友人、知人との面会、家族の協力の下に寺参り、自宅訪問、米寿祝いも実現しています。季節に合わせて、桜、ラベンダー、紅葉などドライブで楽しみ、住み慣れた地元の自然に触れています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を配慮した上で、食事の席や寛ぐ際の配置やペアを考え場所への誘導を行なっている。耳が遠い等会話が難しい方には職員が間に入りコミュニケーションを図れるように支援している。趣味活動での交流もできるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は、利用終了後に、職員が四九日のお参りにご家族宅に訪問等行なっていたが現在は感染症対応にて、ご自宅等へお参りなどは遠慮させていただいている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェースシート、ケアプランに記載しファイリングし共有。ケアプランの内容に沿った記録、申し送りを行い個々のその日の体調や気持ちに合わせ、ケアを実施。より個々の暮らしに合わせた計画が立てられるよう「ライフサポートプラン」の様式を使用。	職員は事業所独自の「元気の素」シートを活用し、常日頃から利用者との会話や行動から思いの汲み取りに努め職員間で情報を共有しています。家族からの情報に加え、入居前からの習慣を尊重し趣味等を生かしたプランを検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの暮らし方、生活習慣等を把握するために、入居前の事業所から情報をいただき経緯を把握したり、ご本人、ご家族様からお話を伺い、元気の素シート(好きな事やこだわり、習慣)を作成し、日々のケアに取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中で、一人一人の生活リズムに合わせた日課表を作成している。個々の利用者のニーズの把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画更新時期、変化のあった際、新規入居時には、担当職員、管理者、計画作成にてカンファレンス開催。本人家族の意向も含め計画を立案。モニタリングは毎月担当職員が実施、計画作成担当者が内容確認を行ってケアの継続する必要性を見極めている。	利用者個々の担当職員が毎月モニタリングを行い、管理者、介護計画作成者と共に協議し、利用者、家族の意向、状態により医療関係者の判断を基に6カ月毎に見直しています。個別記録には職員が把握した暮らしの情報が蓄積され、情報の共有、ケアの実践や見直しに生かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分量、排泄回数などをデータ入力し情報共有し、その日のケアに活かしている。ケアプランの内容に合わせケース記録に入力し、一カ月毎モニタリングを実施しケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の他に、市内の訪問看護、訪問リハビリ事業所と契約を行い必要なケアの実施を行っている。他、週1回のオンライン体操や、希望者への学習療法の実施も行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サークル活動や町内のサロン活動に参加等例年通りには行っていないが、富良野の環境を生かして、季節を感じていただけるよう花畑ドライブ等を実施。ご近所の農家さん等から新鮮なお野菜等の差し入れも沢山いただいて、共に調理し食べる楽しみを作っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	もともとのかかりつけ医へ定期受診をし、必要に応じ、ご本人、ご家族の同意のもと他の医療機関に受診したり、体調等を考慮し往診に変更する場合もある	かかりつけ医の継続受診を要望する利用者が多く、通院は職員が支援し、病院で家族と合流することもあります。重度化対応として話し合い、往診医療への移行も対応しています。歯科医の定期往診及び訪問看護師と法人の看護師が連携し利用者の健康管理に努めています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は施設内の看護職員が体調確認や適切に受診に繋ぐなどの対応を実施。また、市内の訪問看護事業所とも契約をし、定期的な訪問でご利用者の体調の情報共有。他、24時間連絡体制を確保し、看取りケアや急変時にも対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護情報シートを病棟看護師にお渡しし、担当者を伝え、入院中はMSWや病棟看護師と連携を取り、その都度病状確認に努めている。御家族様とも電話連絡をとり、その都度の状況を確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた方針を管理者より説明し、意向確認を書面にて行い、終末期が近づいてきた時に再度本人、家族に意向を再確認。主治医、訪問看護とも連携を図り、ご家族にも協力していただきながら進めている。ユニットでは今までに2名のご利用者の看取りケアを実施。	入居時に指針と共に「重度化・看取り支援に関する意向確認」を説明し同意を得ています。事業所は看取りを経験しており、終末期には利用者、家族に再度意向を確認し、関係者間で方針を共有して支援に取り組んでいます。職員は看取りケアを学び、経験を重ね倫理観とスキルを高めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回普通救命講習を行っており、3年毎に再講習を実施しているがコロナウィルス感染症にて今年度実施ができていない。緊急時のマニュアルや連絡体制の用紙は常に見る場所に保管。また施設内にAEDを設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回日中、夜間を想定した避難訓練を実施。今後地域の方にも協力を得られる様な機会を持ち共に避難訓練の機会を作っていく	7月に併設の老人ホームと合同で抜き打ちの火災避難訓練を利用者参加で実施しています。次回の火災訓練は12月を予定しています。敷地内の系列各事業所とは常に連携を図り、職員は普通救命講習を受講しています。自家発電機、ストーブ、飲食物等を確保しています。	地震や水害などの自然災害を想定した避難訓練に併せて、様々なケア場面に対応出来るよう防災体制の強化に向けた取り組みを期待します。コロナ収束後には地域住民の参加協力を得られることが望まれます。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年に一度職員研修にてプライバシー保護、人格の尊重についてを学び、ご利用者には、ひとりひとり尊敬の気持ちを忘れず接することを心がけている。扉にのれんをかけたり、言葉かけにも気を付けている。	職員は研修にて尊厳の理解を深めています。「元気の素」シートを活用し、利用者個々の背景や本来の姿を知る事で、より尊敬の念を持ってケアにあたっています。個人情報の管理は適切に図られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	元気の素シートを作成し、本人の希望を聞き取る機会を持っている。自己決定の難しい方には表情から読み取ったり、『はい、いいえ』など2択で答えられるよう、簡単な会話を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ご本人の生活リズムに合わせて日課表を作成し支援している。またその日の希望や体調に合わせて臨機応変に支援できるよう朝の申し送りにて情報を共有したり打ち合わせを行い支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみを整え、起床時、入浴時などは本人に衣服を選んでいただくようにしている。もともと習慣に合わせて、特に行事参加や外出時にはアクセサリーやお化粧品もできる声掛けを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	女性のご利用者様が多く入居されており、毎日の味噌汁と副菜作り、盛り付けや後片付けなどを共に行っている。食事の楽しみとして、季節に合わせてテラスでの焼き肉パーティやお誕生日には個別にお好きな物を食べていただけるよう計画をたて実施している。	献立、食材調達は業者委託ですが、白飯かパン、肉か魚の選択が出来ます。誕生日や季節行事では利用者の嗜好を考慮し職員が企画しています。調理での一連の作業では、利用者の力や希望を引き出し達成感や満足感につなげています。寿司、ラーメン、焼鳥などの出前も楽しんでます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量で提供し、水分摂取量が少ない方に対してはゼリーなど形状を変え提供している。食事チームを作り、日々の脱水予防や、低栄養に対する工夫などを話し合い対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後リビングの洗面所で口腔ケアを声掛けや介助にて実施。口腔内の状況に応じ、歯科往診や歯科衛生士にその都度相談したり、訪問リハビリ担当者からSTに相談もしながら口腔機能維持を図っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄リズムを把握して、個々のタイミングに合わせて現在はユニットの全ご利用者がトイレ(ポータブルトイレ)での排泄を行なっている。紙パンツから布パンツの使用ができるか等の話し合いをカンファレンス等で行っている。	トイレ排泄を基本に、自立排泄者には見守り、要支援者には配慮ある声掛け、誘導を行い支援しています。夜間のポータブルトイレ使用や衛生用品は心身の状態や不安感を考慮し、快適に過ごせるよう検討し、極力使用しない生活に注力しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄リズムを把握し、声掛けや誘導を行っている。それぞれの嗜好や形状に合わせて水分を多く摂る工夫をしたり、乳製品や繊維質の物を摂り支援している。便秘の方には訪問看護師に相談しマッサージや腸動確認を実施。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	ご本人が入浴したい時間帯を相談し、その方の希望や体調に合わせてタイミングで入浴をしていただいている。入浴回数も本人の希望や体の状況に合わせて支援している。	入浴は毎日可能で、1人週2回を目安にしていますが、時間帯や回数など利用者の要望に沿って支援しています。同性介助の要望も取り入れ、入浴時は利用者の心に触れ会話も弾み、思いの把握に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動をうながし、夜間はぐっすり眠れるよう支援している。夜間なかなか寝付けない方に対しては、リビングなどで過ごしていただいたり、居室の灯り調整や、湿度温度の環境調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様一人一人がの服薬内容を確認できるようファイリングし情報共有に勤めている。服薬内容が変更になった際には引継ぎや申し送り周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合わせた役割や楽しみごとを行えるよう、その日の体調などに合わせ出来ることを見極め支援。コロナウイルス感染予防で例年通りの活動は実施出来ていないが、工夫したり、時期をみながら外出や出前で好きな物を食べる等も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で日常的な外出は行っていないものの、少し流行が落ち着いた時期に帰宅外出を家族様の協力のもと実施している。富良野の季節を感じていただけるよう、紅葉や桜の時期には少人数でのドライブを週1~2回のペースで実施	日常的な外出は自粛中ですが、感染症対策を講じて、自宅訪問、ショッピング、初詣、喫茶店など訪れています。また、季節のドライブでは四季折々の移ろいを満喫しています。日常では、畑や花の手入れ、中庭で日向ぼっこ、テラスでお茶会など利用者の癒しとなっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約の際にご本人、ご家族と話し、現在お金をご自分で管理している方はいない、支払いも介護者が行っている状況。お小遣い程度お金を自分で所持される方に対しては、買い物の際などお支払いをご自分でしていただけるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会制限時期には積極的にオンライン面会を実施。また、季節にあわせ年賀状や暑中お見舞いなどを書く等も、学習療法を通じ行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人、状況が変化する中で、その都度居心地のよい空間作りを行えるよう配置変え等もし、考慮している。また、季節に合わせた絵画やお花を飾ったり、景色を見て季節を感じ寛いでいただけるようソファの位置など工夫している。	共用空間は広く、対面キッチンのダイニングとソファコーナーの配置を工夫しています。ベランダからテラスに移動ができ、お茶を楽しめるようになっていきます。和をモチーフに落ち着いた雰囲気、テーブルには観葉植物や利用者の活け花を飾り、明るさと華やかさを醸し出し、寛ぎの場所となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席や、団らんの時間を過ごす際には気の合う方と共に座り、談笑も楽しめるよう工夫をしている。また、ご本人に合わせ、お一人で景色を楽しみながら過ごしたい方へのスペースも設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具やご家族様との思い出の写真を飾るなどし、本人が心地よく過ごせる空間作りを行っている。	居室にはクローゼット、洗面台、ベッドを備えています。入居時には馴染みの家具などの持参を促しています。整理ダンス、冷蔵庫、自前の箸や茶わん、趣味のプレイヤー、レコード、家族写真など、自宅との違いが少ない環境に努め、安らげる空間を作り上げています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーの環境となっており、介入しすぎず、自立した生活が送れるよう支援している。ユニットのベランダからテラスに自由に行き来できるよう夏季の日中ははなるべく鍵をかけていない		